

日本文化・芸術の祭典「ジャポニスム 2018：響きあう魂」

公式企画「いけばな」開催詳細が決定 池坊、一葉式いけばな、小原流、草月流、未生流が海外初競演 家元・次期家元による作品展示・ワークショップ・シンポジウムを通じて、 いけばなの魅力を華やかに紹介

フランスにおいて現在開催中の日本文化・芸術の祭典「ジャポニスム 2018：響きあう魂」の公式企画「いけばな」では、池坊、一葉式いけばな、小原流、草月流、未生流の5つの流派の家元・次期家元がパリに会して、作品展示・ワークショップ・シンポジウムを通じて、いけばなの魅力を華やかに紹介します。

日本人の日々の暮らしに寄り添いながら、時代の移り変わりや生活空間の変化に応じて多彩な様式を創造し、発展してきたいけばな。文化としてのその成立は室町時代と言われていますが、そこに息づく自然観や精神性は、古代神霊信仰の現れである「依代」や仏教伝来とともに広まった「供花」にまで遡ることができる、日本を代表する生活文化の一つであり、今や世界中で愛好されています。

本企画では、各者の特色・様式を存分に際立たせつつ、全体としても、いけばなの長く豊かな歴史を総覧できるような、ストーリー性のある展示空間を作り出します。一級の技術と植物の躍動感が織り成すいけばなの世界をフランスの方々にも体感してもらい、その背景にある日本人の季節感や美意識まで伝えることを目指します。



池坊専好
(池坊次期家元)



粕谷胡弘
(一葉式いけばな家元)



小原宏貴
(小原流家元)



勅使可京茜
(草月流家元)



肥原慶甫
(未生流家元)

【作品展示「いけばな－その多様性」】 小作・中作・大作の3つのエリアを仕立て、計15作品が競演します。

- 日時 1月30日(水)～2月2日(土) 12:00～20:00 (最終日のみ～18:00)
- 会場 パリ日本文化会館大ホール

【ワークショップ】 家元・次期家元の指導・立会いの下、各流派のいけばなを実際に体験してもらいます。

- 日時 1月30日(水)～2月1日(金) (各流派2セッションずつ、計10セッション)
- 会場 パリ日本文化会館レセプションホール

【シンポジウム】 家元・次期家元が、いけばなのこれまでとこれからを語り合います。

- 日時 2月2日(土) 15:00～17:00
- 会場 パリ日本文化会館小ホール

※会期中に、いけばな国際ナショナルパリ支部会員作品展(70点程度)も併催します。

- 主催 国際交流基金
- 企画協力 公益財団法人日本いけばな芸術協会、いけばなインターナショナル
- 花材提供協力 山形県、Chèvreloup 国立植物園

報道関係者からのお問い合わせ先：

(独)国際交流基金ジャポニスム事務局/ジャポニスム 2018 PR 事務局 株式会社サニーサイドアップ内

担当：浅野憲央(070-3190-3708)、川合遼星、松瀬恵子

住所：〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷4-23-5 JPR 千駄ヶ谷ビル

TEL：03-6894-3201 FAX：03-5413-3050 E-mail：japonismes2018@ssu.co.jp

<参加流派> (あいうえお順)

池坊

花を生けることで「悟り」を得ることができると華道の理念を確立したのは、室町時代後期に活躍した池坊専応でした。専応は、その口伝の中で「美しく咲いた花だけでなく、蕾にも、朽ちた花にも命がある。」と説き、池坊いけばなの今も変わらぬ哲学を示したのです。池坊は「華道家元」すなわち「いけばなの根源」として、室町時代から続く最も古い様式「立花（りっか）」、江戸時代に成立したシンプルな様式「生花（しょうか）」、戦後に定着した型のない様式「自由花（じゆうか）」の3つのスタイルを基本に、過去から現在、そして未来に向けて、華道を受け継ぎ発展させています。



一葉式いけばな

一葉式は、花や植物と自分との“間”を大切にしています。物事には“間”（ま）というものがあります。それは、空間や、時間、関わり方であったり、或はバランスであったりと、人により感じ方、捉え方は様々です。一葉式には、『あらゆる存在と自分との“間”というものを意識し、植物や材料となる物の持っている良さや“表情”を捉え、花をいける』といった理念があります。また、和の空間、現代の生活空間を楽しむ花、スケールの大きな舞台創花まで、あらゆる空間を花の場ととらえ、その場、その時、その材料で、また、どんな国、どんな文化でも調和できる独創性豊かないけばなを目指しています。

いけばな小原流

小原流は19世紀末、流祖（初代家元）・小原雲心が「盛花（もりばな）」という新形式のいけばなを創始して、近代いけばなの道を開いたことに始まります。「盛花」は、口が広く浅い器（水盤）に材料を「盛る」ように展開させるもので、それまでのいけばなが持つ「線の動き」を主とする構成に比べ「面的な広がり」を強調したところに特徴があります。創流から現在に至るまで、歴代家元は「盛花」を基本としつつも、生活様式の変化に合わせていけばなを考案してきました。そして、その伝承は五世家元・小原宏貴が担っています。



草月

草月流は、従来のいけばなに疑問を持ち、「個性」を尊重した自由な表現を求めた初代・勅使河原蒼風家元によって、1927年に誕生しました。「いつでも、どこでも、だれにでも」、そしてどのような素材を使ってもいけられるのが草月流。現在は、第四代・勅使河原茜家元のもと、「型」にとらわれることなく、常に新しく、自由にその人の個性を映し出す流派として、世界中で親しまれています。また、時代と共に自在に変化してゆく草月のいけばなは、ご家庭を彩ることはもちろん、ウインドーディスプレイや舞台美術など、社会のあらゆる空間に植物表現の美と安らぎをもたらしています。

未生流

未生流は、1807年に流祖・未生斎一甫が創流したいけばなの流派です。未生斎一甫は、あるがままの自然がただ尊いのではなく、人の手を介することで更なる本質的な美を表現することこそいけばなの本義であるという「虚実等分」を称え、また、幾何学的理論に基づいた花形の中に東洋哲学を融合させることで、それまでのいけばな理論を体系づけました。未生流は、未生斎一甫が創り上げたいけばな「格花（かくばな）」を、江戸後期に上梓された伝書に基づき、正しく現在に伝承するとともに、現代の生活様式に応じた「新花（しんか）」を制定し、いけばなの無限の可能性を追求します。



報道関係者からのお問い合わせ先：

(独) 国際交流基金ジャポニスム事務局/ジャポニスム 2018 PR 事務局 株式会社サニーサイドアップ内

担当：浅野憲央 (070-3190-3708)、川合遼星、松瀬恵子

住所：〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷 4-23-5 JPR 千駄ヶ谷ビル

TEL：03-6894-3201 FAX：03-5413-3050 E-mail：japonismes2018@ssu.co.jp



※ 本リリースに掲載の写真は本事業に関する報道に限り、ご自由にお使いいただけます。
そのほか、パリでのイベント実施風景写真のご希望がございましたら、下記お問い合わせ先までご連絡ください。

「ジャポニスム 2018：響きあう魂」とは

日仏友好160年にあたる2018年、両国政府間の合意に基づき、芸術の都フランス・パリを中心に、大規模な日本文化・芸術の祭典「ジャポニスム2018：響きあう魂」を開催中。パリ内外の100近くの会場を舞台に、約8か月間に亘り、美術展、舞台公演、映画、その他食や工芸など日本人の日常生活により密着した文化まで含め、さまざまな日本の芸術と文化を、古典から現代まで幅広く紹介しています。会期を通じ、約70の公式企画を実施。東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会を前に、日本文化の多様な魅力をパリに、またパリを通して世界に向けて伝えようとするものです。

会期： 2018年7月～2019年2月

事務局： 独立行政法人国際交流基金

公式ウェブサイト： <https://japonismes.org/>



ジャポニスム 2018

報道関係者からのお問い合わせ先：

(独) 国際交流基金ジャポニスム事務局/ジャポニスム 2018 PR 事務局 株式会社サニーサイドアップ内

担当：浅野憲央 (070-3190-3708)、川合遼星、松瀬恵子

住所：〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷 4-23-5 JPR 千駄ヶ谷ビル

TEL：03-6894-3201 FAX：03-5413-3050 E-mail：japonismes2018@ssu.co.jp